

V. 庄内の土偶

庄内では出羽山地の西麓に沿って分布する14遺跡から81点の土偶が見つっています。日本海に沿う庄内はその地理的環境から内陸部以上に南北の文化が行き交いました。この地域の縄文文化はそうした北と南の錯綜した在り方が以前から注目されてきています。

庄内で土偶が見られる時期は縄文中期の前葉からです。この頃は北陸や中部地方からの影響を強く受けた文化が庄内一円に広く分布していたと考えられます。東北部の独自色が強かった内陸での様子とは大分ちがっていたようです。平田町山谷新田遺跡や羽黒町玉川C遺跡からみつかった土偶は、そうした当時の北陸や中部地方からの影響を教えてください。

その他の土偶では中期末の八幡町蔵台遺跡の例が注目されます。柱突で棒状の胴体には、剃刀のような鋭利な工具で描かれた、とても繊細な文様が見られます。やまがたでは数少ない縄文中期末の土偶として貴重なものです。



鶴岡市岡山遺跡出土土偶（中期）



平田町山谷新田遺跡出土土偶(中期)

VI. 土偶の周辺

土偶の周りには土偶との関係が深いと考えられるさまざまな土製品や石製品があります。たとえば石を加工して作った三角柱、あるいは動物形の土偶や硬い石を打ち欠いて作った岩偶などです。今回の展示では上山市思い川遺跡から出土した三角形土製品をはじめとして県内の遺跡から出土した土偶関連の品々も展示しました。人形や三角形に魅せられた縄文人の想いはなんだったのか、これらを土偶と重ねながら考えてみたいと思います。



村山市西海湖遺跡出土
三角形土製品（中期）



遊佐町小山崎遺跡出土岩偶（後期）

◆主な展示資料◆

No	市町村	遺跡名	点数	種類	時期
1	米沢市	台ノ上遺跡	87	土偶	中期
2	米沢市	竹井境A遺跡	6	土偶	後期
3	高島町	石ヶ森遺跡	8	土偶	後期
4	高島町	上平柳遺跡	3	土偶	後期
5	上山市	思い川A遺跡	40	土偶・三角形土製品	中期
6	上山市	泥部遺跡	10	土偶	後期
7	山形市	蔵王上野遺跡	1	土偶	中期
8	山形市	熊ノ前遺跡	2	土偶	中期
9	山形市	山形西高遺跡	4	土偶	中期
10	天童市	渡戸遺跡	15	土偶	後期
11	天童市	高野坊遺跡	1	土偶	後期
12	寒河江市	柴橋遺跡	2	三角形土製品	中期
13	寒河江市	高瀬山遺跡	5	土偶	前期
14	寒河江市	石田遺跡	2	土偶	晩期
15	西川町	山居遺跡	10	土偶	中期
16	村山市	宮の前遺跡	18	土偶・岩版ほか	晩期
17	村山市	作野遺跡	8	土偶・岩偶	晩期
18	村山市	川口遺跡	15	土偶	後期
19	村山市	西海湖遺跡	27	土偶・三角形土製品	中期
20	村山市	中村A遺跡	5	土偶	後期
21	村山市	落合遺跡	2	土偶	中期
22	尾花沢市	原の内A遺跡	20	土偶・三角柱形石製品	中期
23	尾花沢市	巾遺跡	2	土偶	中期
24	尾花沢市	漆坊遺跡	19	土偶	晩期
25	大石田町	イカゴの上遺跡	1	土偶	晩期
26	大石田町	ドザキ遺跡	5	土偶・三角形土製品	中期
27	舟形町	西ノ前遺跡	48	土偶	中期
28	最上町	げんたい遺跡	8	土偶	晩期
29	最上町	水上遺跡	1	土偶	後期
30	最上町	水木田遺跡	25	土偶・三角形土製品	中期
31	真室川町	釜淵遺跡	1	土偶レプリカ	晩期
32	朝日村	砂川A遺跡	11	土偶	後期
33	羽黒町	玉川A遺跡	1	土偶	後期
34	羽黒町	高森遺跡	1	土偶	晩期
35	鶴岡市	岡山遺跡	3	土偶	中期
36	平田町	山谷新田遺跡	3	土偶	中期
37	八幡町	蔵台遺跡	6	土偶	中期
38	遊佐町	杉沢遺跡	1	土偶レプリカ	晩期
39	遊佐町	小山崎遺跡	6	土偶	後期
40	遊佐町	神矢田遺跡	1	土偶	晩期

計 434

◆展示協力◆

米沢市教育委員会
山形大学附属博物館
大石田町教育委員会
(財)致道博物館
渡部昇龍氏(尾花沢市)
まんぎり会(米沢市)

高島町教育委員会
寒河江市教育委員会
尾花沢市教育委員会
(財)山形県埋蔵文化財センター
熊谷松四郎氏(尾花沢市)

天童市教育委員会
朝日村教育委員会
遊佐町教育委員会
教育庁文化財課
玉川寺(羽黒町)

企画展

やまがたの土偶

～縄文の女神たら～

平成11年 4月24日(土)～6月27日(日)

主催：山形県立博物館

〒990-0826 山形市露城町1-8 TEL 023-645-1111



村山市中村A遺跡出土土偶（縄文後期）

開催にあたって

今回の企画展は、縄文時代の精神文化を代表する県内各地から出土したさまざまな土偶を取り上げました。

この人形の「土偶」は妊婦や豊満な女性像が大半であることから、豊饒を願う女神像と考えられているものです。また、故意に壊された状態でみつかることが多いため、生命の輪廻転生を象徴する祈りや祭りの主人公としての役割も推測されます。

県内から出土した土偶は現在までのところその数715余が知られておりますが、本展ではこれらの中から主要な土偶ほか434点を一堂に集めて紹介しております。

地域や時代による女神像の変遷をうかがうと同時に、その造形に託された縄文人のねがいの一端に想いを馳せていただければ幸いに存じます。

なお、開催にあたりまして、貴重な資料の出品を快く承諾くださいました関係各位に厚くお礼を申し上げ、挨拶いたします。

館長

◆ 展示解説 ◆

I. やまがたの土偶

土偶は今から約8,000～9,000年ほど前の縄文早期前半に出現し、この縄文時代を通して製作されました。やまがたでは縄文前期前葉の天童市上荒谷遺跡の土偶が最も古く、縄文前期後葉の寒河江市高瀬山遺跡の土偶がこれに継ぐものです。

縄文中期前葉になると米沢市台ノ上遺跡や最上町水木田遺跡のように一つの遺跡からたくさんの土偶が出土するようになりますが、一方ではほとんど土偶のない遺跡もあるなど、土偶と縄文集落の関係は一樣ではありません。また、中期も終り頃になると土偶の数が激減してしまう状況に遭遇します。

このように土偶の製作や在り方は時期や遺跡の性格によって大きく異なっていたと考えられます。



寒河江市高瀬山遺跡の土偶（前期）

縄文後期の土偶は全県的に強い斉一性がみられます。後期中葉には天童市渡戸遺跡や村山市川口遺跡のようにたくさんの土偶が再び作られるようになりました。この時期の土偶には頭髪の形や腹部の文様などに顕著な特徴が認められ、相互の近縁性が即座に理解できる場所です。

縄文晩期には青森県を中心とする亀ヶ岡文化系の土偶が県内各地で見られます。これらは遮光器といわれる土偶の流れを汲むもので、やまがたでは初期のものが少なく、後葉～末葉の優品が目立ちます。遊佐町杉沢遺跡や真室川町釜淵遺跡、寒河江市石田遺跡、羽黒町高森遺跡などの土偶はこの時期の代表的な土偶です。

縄文時代の時期区分

草創期	約13,000～10,000年前	中期	約5,000～4,000年前
早期	約10,000～6,000年前	後期	約4,000～3,000年前
前期	約6,000～5,000年前	晩期	約3,000～2,400年前

II. 置賜の土偶

置賜地区では米沢市台ノ上遺跡をはじめとする17の遺跡から139点の土偶が知られています。

この中で台ノ上遺跡（中期前葉～中葉）では、100点もの土偶がまとまって見つかると、一つの遺跡から出土した数としては県内最多となっています。また、この地域の中期土偶には中部地方や北陸地方からの影響もうかがわれ、当時の文化的交流を探るうえでは注目される場所です。その他の土偶では縄文後期の米沢市竹井境B遺跡や高畠町石ヶ森遺跡の土偶がまとまりをみせており、この地区の後期土偶の様子を知るうえで貴重です。



米沢市台ノ上遺跡出土土偶（中期）



米沢市竹井境B遺跡出土土偶（後期）

III. 村山の土偶

山形盆地や尾花沢盆地の山麓部を中心として展開する47の遺跡から現在までのところ385点の土偶がみつかっています。これらの分布は山形市を中心とする盆地の南東部や寒河江市を中心とする西南部、そして村山市や尾花沢市を中心とする北半部でそれぞれまとまりを見せています。

時期的には天童市上荒谷遺跡の前期前葉、寒河江市高瀬山の前期後葉のものが先行し、上山市牧野遺跡や同思い川遺跡例などがこれらに後続する中期前葉の土偶です。また、時代と数量の関係は、前期が6点、中期が161点、後期が120点、晩期が98点の内訳となり、中期が一番多く（42%）、次いで後期（31%）、晩期（25.5%）、前期（1.5%）の順となっています。このことから土偶が盛んに作られた時期は縄文時代の中でも中期や後期そして晩期といわれる時代だったことがわかります。



天童市高野坊遺跡出土土偶



天童市渡戸遺跡出土土偶

IV. 最上の土偶

舟形町西ノ前遺跡をはじめとして最上町水木田遺跡や水上遺跡などがこの地区での代表的な土偶出土遺跡です。これらの遺跡は小国川やその支流に沿って分布し、川から得られる鮭鱒などの恵みが生活を支える大切な糧になっていたと考えられます。

群れなす鮭を短期間で集中的に捕えるには共同での作業が不可欠だったにちがいない、近隣の村々が総出で力を合わせるようなことがあったのでしょう。西ノ前遺跡の日本一の大形土偶はそうした背景の中から生み出されたものとも考えられます。また、西ノ前遺跡の上流に位置する水木田遺跡も向町（小国）盆地では中核となった縄文中期前葉の一大集落でした。



最上町水木田遺跡出土土偶（中期）



最上町水上遺跡出土土偶（後期）